

アサヒビール株式会社の事業適応計画のポイント

2026年 3月 26日

- 当社は「アサヒグループ環境基本方針」「アサヒビール環境方針」に則って、2050年までのありたい姿として「アサヒグループ環境ビジョン2050」を策定し、事業活動を通じた環境負荷の低減と持続的な企業価値の向上を両立させることで、豊かな自然の恵みを未来世代へつなぐことを目指しています。
- 博多工場から移転する鳥栖工場は、アサヒグループの次世代生産体制のモデル工場として、ビール製造における生産能力の増強・効率化と製造方法の刷新によるGHG排出量の削減により、グループ目標を前倒しする形で工場単位でのカーボンニュートラルの実現を目指すものであり、付加価値の創出と環境負荷の低減の両立に取り組めます。

<事業適応計画の概要>

1. 事業適応計画の実施期間

2027年1月～2029年12月

2. 生産性向上目標

2029年12月までに炭素生産性を35.2%向上させる。

3. 前向きな取組の内容

老朽化した博多工場から鳥栖工場に移転し、生産能力の増強・効率化とGHG排出量の削減を図る設備投資を実施する。

4. 支援措置

税制措置（カーボンニュートラルに向けた投資促進税制）

<鳥栖工場 完成イメージ図>

